

第2回勝山市立中学校再編準備委員会 議事録

(1)日 時：令和4年6月2日（木）午後7時より、（教育会館 第1研修室）

(2)参加者：委員（19名）（3名欠席）、事務局10名、報道2名、傍聴6名

(3)内 容

①委員長あいさつ

②協議事項

- ・新中学校の校舎及び勝高特別教棟について
- ・部活動について
- ・中高連携について
- ・スクールバスについて

①《委員長あいさつ》（省略）

（新中学校を勝高の敷地内に建設をして中高連携を進めていくことについて）

事務局 ・このことについて諮りたい旨を説明。

委員1 ・3校を1校にして勝山高校に併設することには賛成だが、スクールバスについては、最初は市営駐車場が発着場だったように思う。素人なりに考えた場合、合同体育館の敷地は相当広いと思う。元禄線から奥越特別支援学校を通ればすぐ合同体育館へ入って来れるし、三谷の方からの信号から入れば、あそこもすぐ合同体育館に入れる。トンネルはいろんな見えないところがある。今までもサンプラザの前に陸橋があった。今現在は、元町交番からの横断歩道を渡って子供が全部西校へ通っている。中学校だったらその危険な場所を信号を渡るのも学習だと思う。勝山高校のグラウンドは直線で合同体育館からは土手に沿ってまっすぐ行っても200mはないと思う。東側に約1mの風除室をガラス縛りでまたはアクリル板で合同体育館までの廊下を作るといい。そうすると校舎の中から子供の様子がわかる。何かそういう改善する方向で子供さんのためにやってもらえたらと思う。

事務局 ・勝高の敷地内に建設をして進めていくということが、みなさんで確認が取れば、その後で、アクセスをどうするかという次の議論になっていくかと思うので、後ほどそういった説明をする場合にその部分の協議をさせていただくことでよろしいか。

委員2 ・高校の敷地内に作るということに限って話をさせていただくと、その目的がいわゆる協働的な学びとか、探究的な学びとかということで、いろいろな方々と中学生が意見を交わしたり、アドバイスをもらったり、何か褒めてもらったりというような環境の中で育っていく。そういう学びを進めていくことについては今、文科省が進めているような話でもあるし、現場の子供たちを見ていても、そういう力は非常に重要な力であると考えている。子供たちが主体的に自分たちから学びを進めていくという学習を進めようと努力しているところである。そういった中で中学校の連携を強める。さらに勝山高校との連携も進めさせていただいている。それが今は離れた状態でやっているが、近くにできるということであれば、一つの新しい教育のあり方として、可能性を感じるころである。新しい校舎ができて、本当の意味で子どもたちも保護者のみなさんも、それから学校の教職員もここで働けて良かったな

という校舎をぜひ作っていただきたい、そんな思いでいっぱい。探究的な学びとか、自分から調べていく学びとか、いろんな人と関連を持ちながら勉強していく学び、そういう学びを新しい学校のメインにすえてやっていくという意味では、こういう立地の条件は適していると考え。ただそれだけで本当にいろんな人が注目をする、勝山すごいなと言ってもらえるような学校になるのかと考えたときに、現在の教職員もいろんな考えを持っている。探究的な学習とか協働的な学びとかだけではなしに、今教職員が考えているいわゆる夢の学校というか、こんな教育がしたかったんだというようにない思いを聞いていただいて、基本はこういった形で進めるにしても、その中にいろいろな要素が入っていて、子供たちは本当にここで学べて良かったな、先生方がここで仕事ができてよかったな、保護者のみなさんがこの学校でよかったなと思えるような、そんな学校を目指して議論を進めたいと考えている。

委員 3 ・再編に関してこれまで様々な協議を進めてきたが、今回の再編計画では勝高への併設という一定の方向性が示された。今回PTA部会の方で、具体的にこのスクールバスの検討も入ったが、今までになかったくらい非常に多岐にわたるいろんなご意見をいただいている。これによって、ようやくいろいろ具体的にスクールバス自体のイメージもつかめる。今後さらに部会の方ではいろいろ検討を進めていかななくてはならないが、場所の問題としての勝高への併設というスタンスにおいては、課題も指摘されているが、一定の方向性があるということで、PTA部会としては賛成できる形になると思う。ただ、スクールバスとか、ご家庭の送り迎えも複合的に考える余地は残っているのかなと考えている。基本的な考え方はいいのかなと思うが、これをさらに具現化していくにあたっては、これまでの過去の議論の中でもまだ具体的に話されてなかった部分も多々あるかと思うので、そういったようなところをぜひPTAの方からの意見をどんどん吸い上げていただいて、いろいろ議論を交えて、より良い中学校および高校との関係性を含めて進めていきたい。親としての立場で考えると、やはりあくまでも子供たちの安全性や利便性など、多面的な方向からPTAとして考えていく必要性もあるので、そのようなところも今後交えながら充分議論して進めていきたいと考えている。

委員長 ・新しい中学校を勝高の敷地内に建設する。そして中高連携し教育を進めていくということについては、この準備委員会として、ここにスタート台をもう一回おくということの確認でよろしいか。

(全会一致で確認)

(新中学校建設場所の最適地について)

事務局 ・再編計画にあるように①案を最適地として良いかご意見を伺いたい。

(資料2により①案、②案、③案のメリットデメリットを説明。)

委員長 ・このことについて①案で進めていく方向でよろしいか。

(全会一致で確認)

②《協議事項》

(新中学校校舎について)

事務局 ・資料1(第2回施設整備部会議事録要旨)、資料3(新中学校の玄関等(案))により説明。

①-1案:玄関を新校舎の西側、①-2案:玄関を勝高と背中合わせ

	①-3案：玄関を新校舎の東側を説明。資料1が検討結果。
委員1	・メディアセンターという聞き慣れない施設がある。これはどのような活用がされるのか。
部会長	・メディアセンターというのは基本的には図書館というものをイメージしてもらったらい。今までの図書館では本を借りる、本を探して読むといった活動が主に行われていると思うが、図書室で調べてそこで発表までしてしまうような、図書室の中でも授業が行えるように多少座席のゆとりだとか面積に余裕をもって作られているスペースである。タブレットをプロジェクターに映して生徒が発表するようなこともできるような形になっている。調べるとか本を読むとかいう静かな環境と、話し合うとか発表するとか声を出すという音を出す環境が入り混じったスペースになっている。
委員2	・玄関と併設しているイメージがあったので、その方がメリットがあるのかと勝手に思ってしまった。玄関と近くにあるからいいというのは特になんかということよろしいか。
部会長	・発表するとかいろんな人たちが交流できる、すぐ本を手にとれるという意味で、割と玄関近くに配置することがある。立ち寄りやすいということで、休み時間などの時のアクセスの良さで玄関におく場合がある。必ずしも玄関の近くに置くのではなくて建物の中心に置くパターンもある。
委員3	・今の説明で西側にせよ東側にせよ理解はできるが、地下道を前提としての進み方をしているような気がする。地下道をする場合に高低差が7～8mある。地下道を通してジオアリーナの裏側のところから入ると急な階段になってしまう。そこでもしも子供が足を滑らせて冬などに事故が起きたら、取り返しのつかないことになる。先ほど言ったように、西側にしても東側にしてもガラス張りの風除室があれば校舎から子供の姿が見える。元の合同体育館にして近所の人でもしも騒音が大きいという意見があれば、バスを200台持ってきてテストをして、いろんなことを考えてやっていかないといけない。
事務局	・地下通路も安全安心である構造を目指して検討をして行く所存でいる。ほかのアクセスの件も検討はさせていただくが、どうしても距離の関係とか休み時間やその間に移動することもあると思うので、そういったことも含めて総合的に再度検討はさせていただきたい。
事務局	・再編計画には地下通路を作るとあるので、先行してその前提でやらせていただいた。今いろいろご懸念も出されているので、これは次回に例えば歩いていったらどうなるかとかいうシュミレーションをこちらでさせていただいて、改めて説明をさせていただくことでよろしくお願ひしたい。
部会長	・生徒が左側から来るのが現状で、中学校を作ることで右側からのアプローチが出てくるので、玄関を左側に寄せようか、それとも右側に寄せようかというものの議論をしたかった。地下通路であろうが横断歩道を渡ろうが、右側から人がやってくることになるので、管理をどちら側にするかという話の中で、多分並行して進んでいくと思う。
委員4	・並行はするが中学校と高校は全く別のものだと思う。今の話を聞くと西側と東側となれば、当然東側の方を校門にすべきかという感じがする。
委員5	・二階を通るとか一階を通るという説明をもう一度教えてほしい。
事務局	・①-2案では新校舎と高校の校舎は渡り廊下でつなぐことを考えている。一

階をすべて高校生の諸室にすると、中学生はこちらに一階で渡る必要はないので二階三階だけ渡り廊下を作れば、ピロティ形で動線が確保できるという内容になる。

委員長 ・意見があればまた事務局の方にお寄せいただきたい。

(勝高特別教棟について)

事務局 ・資料5 (授業コマ数と必要部屋数)、資料4 (第2回学校運営部会議事録要旨)、資料6 (勝高校舎図(現状))により説明。

委員1 ・基本的にこの議論については、中学校の教員に高校の先生方にも加わっていただいて、具体的な話をしてきた。議論としては、現状のものを入れるとしたらという前提で話をしている。将来のビジョンを持ってこういう教育をしたいからとかこんなこともしたいということが入っているわけではない。現状の高校の授業をそのままやり、中学校の授業をそのままするとしたら、これだけ要するという前提である。例えば恐竜博物館とのことを一つの目玉にしようと思うと必然的に地学とかが必要になってくるのかなと考えるが、その辺りの話はなしに現状の場合はこうだという議論である。

委員長 ・中高それぞれマックスの部屋を考えているが本当に必要かどうか、この特別教室のあり方を学校の特色とか魅力ということからさらに検討していく必要があるということ、また中高の共有する部分と共有しない部分をどう考えるかということを経後の検討として部会の方に戻したいと思う。

(部活動について)

事務局 ・資料7 (勝山高校・勝山市内中学校の部活動一覧(R9年度)(例))、資料8 (令和9年度部活動使用施設(例))、資料9 (令和4年度勝山市体育施設利用希望状況)により説明。資料4の2も説明。

委員長 ・国が中学校の部活動の在り方を検討しているという新聞報道が出ている。補足で説明はあるか。

事務局 ・今国が何を考えているかという土曜日とか日曜日の話である。土日の部活動を学校の部活動とするのではなく、地域のスポーツクラブとかいろんなジムとかで指導してもらおう。学校の先生の手を離すというのが部活動の地域移行ということ。5月31日にスポーツ庁の有識者会議があり、来年度2023年度から25年度までの3年間でその形を完成させるという提言が了承された。3年間の猶予はあるが、そのために国も整備を条件整備していかななくては行けないが、各自治体も取り組んでほしいというような趣旨がとりまとめられたという報道だった。この問題は、再編の問題とは別に勝山市の中学校の部活動を地域移行の形へどのようにもっていくのかという、別の話にもなる。それが進んでいくと再編の新中学校の部活のあり方とリンクしていくということになる。地域移行のところはまだ不確定な要素があるので、なかなか突っ込んだ議論が出来ないということになっている。ただ、勝山市は福井にあるようなスポーツジムとか、総合スポーツクラブもたくさんあるわけではないので、今、民間の方、一般の方に土日指導してくださいと言っても、その指導者の確保が難しい。並行して議論をしていかなければというところである。

委員1 ・基本的に表の見方を確認したい。例えば資料9で成器西小のグラウンドで、野球と書いてあるのは勝高の野球部ではないということでもいいか。

- 事務局 ・ここに書いてあるのは中高生以外。ここにバドミントンと書いてあるが勝高のバドミントンではない。勝高のバドミントン部は、この一般の方が利用されているところではなくて、空いているところを利用して活動をしている。
- 事務局 ・資料の見方で補足する。このジオアリーナを見ていただくと1番から12番まで数字があるがこれはバドミンントンのコート12面があるということ。バドミンントンの一つのコートを例えば卓球とかソフトバレーが使っているのは、一コート分だけ借りているという意味。またがっているのは何コートも広く使っているということで、長山グラウンドは三つに分かれて市営テニスコートは四コートあり、二コートを使っているとか西小のグラウンド体育館は二つに分けて貸すが全面使っているというように見ていただきたい。
- 委員2 ・勝高の硬式野球、高校サッカー、中高陸上となっているが、実際、今の状態でもかなり狭い感じで、校舎が建つとなると難しいのではないかと。また長山においてサッカーと書いてあるが、長山グラウンドの形を見ていただくとサッカーには向かない。旧中学校のグラウンドを活用して、移動に関してはどうしてもバスという形になるかと思うが、そういう形で検討していただくといい。ただそうすると部活の時間が16時15分から17時45分となっている。現状でもかなり生徒の方からは短いという声が出ている。この辺りも考えて、移動時間がどうしてもかかるので、調整が必要。別の問題だが、先ほどの土日の地域移行に関して、基本的に土曜日日曜日は練習試合をする部活が多い。平日先生が教えて土日に地域移行したコーチが試合の指揮をとるというのもどうなのかといういろいろな問題があるかなと思う。
- 事務局 ・令和9年度に新中学校になれば、今ある3中学校の体育館やグラウンドはどうなるのか、その活用も考えていかななくてはいけないという指摘があった。その時に中高生が3中学校の方に移動するのか、あるいは相談して逆に社会体育やスポ少の皆さんに3中学校の方に移動してもらおうのかという意見も出ていた。
- 委員3 ・今生徒数が減少していて、特にうちの中学校は各学年40人ぐらいしかいないので、それを単純に分けると男子20人、女子20人となり、一つの部活を運営していくのがかなり厳しい状態になっている。野球部とサッカー部で20人、あとほかの部活にどう入るかとなる。ここ何年かではほかの中学校も二クラスになっているので、合同チームの形でないと出られない部活も出てきて、精選を進めていく必要があると思う。そうすると部活が減ってきて使う場所も減っていくということで、今年から部員数を集計している。どんな形で進むか、ここに向けて調整をしていかななくてはいけない。中体連を中心に部員の数を継続的に調べていって、今後どうなるかの検討をしていかなければいけない。
- 委員長 ・生徒数の減少に対する部活のあり方、部活の数をどうしていくのかということも併せて議論をしていただければと思う。
- (中高連携について)
- 事務局 ・資料10(中高連携の柱(案))、資料11(探究・中高一貫教育に関する新聞記事)を説明。資料4の3も説明。
- 委員長 ・勝山高校の環境学習の様子について説明していただきたい。
- 委員1 ・一年生探究特進科は一クラスを今年度から新設して、探究特進科だけではな

く普通科も含めて探究活動を行い、特色を持った学校づくりに取り組んでいる。実は探究活動と言っても、そういうコマの中で探究活動をする場合と、各教科学習の中でも探究的な学びということで、探究活動を中心に据えながら授業を進めていくという場合がある。今年の一年生から、今までだと現代社会という教科をやっていたが、新指導要領になって公共という教科が入ってきている。その公共の授業の中で勝山市役所の方や越前市の方でボルガライスをPRされた方、この二人に来ていただいて、政策についての授業をしていただいた。これをきっかけにして生徒自身が実際に政策を立て、「こんな政策を立てていきます。こういう政策で立候補します。」という模擬立候補のような形の授業を展開した。そこで模擬立候補模擬記者会見みたいな形で、生徒が政策を発表し、それに聞いていた生徒がどの政策に手を上げるかみたいな模擬投票の授業を行った。このようにして、自分達で考えて、自分達で問いを作って探究活動を通して最適解なり納得解を見つけていく、それを仲間達と共有しながら協働的に学びを深める、それからアウトプットの活動をすることによって、さらに学びを深めるというような流れの活動を今、高校では盛んに行っている。これが将来の自分の進路と結びつく場合ももちろんある。自分の興味関心に従ってテーマを設定したりすることになるので、その際にそれが大学の入り口、高校の出口と密接に関連してきて、自分がどういうことに興味を持って、どういうふうに大学で勉強したいかということに繋がってくる。大学側の方も、今までのような知識やスキルを問うようないわゆる一般選抜だけではない入試制度が増えてきている。総合型選抜とかいうような名前でも今実施しているが、そういう選抜方法が増えてきていて、それは、生徒たちが、高校でどんなことをやってきましたか？大学ではどう学びたいですか？ということ問うような入試が増えてきている。そういうこともあり、もちろん文科省の方針もあるが、全国的に探究活動が盛んになってきていて、それを勝山高校では探究特進科という科も作りながら学校の特色として今進めていこうと考えている。

- 委員長
事務局
- ・中高一貫のことで補足はないか。
 - ・連携型中高一貫という国の制度で、あわら市の金津中と芦原中が県立の金津高校と、設置者が違うのだが連携して教育を行っているという制度。学校がもともと離れているので、例えば高校の先生が、中学校に行くとなると車に乗って行くので時間がかかる面があったりして、すぐに交流するとか教えるとかということが時間的な問題があって難しい。ただ、タブレットが入ったので、そういったこともきっかけに今までやってきたことを更に強化していくということがこの記事に書いてある。こちらは敷地内に作って、この連携型の中高一貫という仕組みを入れていきたいという思いがある。これもいろんなやり方があるので、それを勝山型になるように、より良くなるような形で検討していきたいということで、まだ具体的な議論はされていない。
- 委員長
- ・勝山型の新しい中高接続をこれから部会でも議論していく必要がある。
(スクールバスについて)
- 事務局
- ・資料12(第1回PTA部会議事録要旨)、資料13(勝山市地域公共交通計画(イメージ))、資料13(令和9年度スクールバス利用推計人数)を説明。
- 委員長
- ・ハブ方式の問題や、送迎の問題、冬の期間の問題等があった。保護者の皆さ

	んから意見はないか。
委員 1	・ここに抜粋されている諸問題等を含めて、事務局、市の方でもう少し具体的な案を練った上で部会の方に提出していただけるということだったので、その具体案になったものについて、各PTA会員の皆様にもそれを元に聞くということで話をさせてもらっている。
委員 2	・高校側の生徒の問題はどうか。
委員 3	・中高生は分けた方がいいのではないかと一緒にいいのではないかとかはまだこれからの話し合いである。
委員 4	・スクールバスの話は部会の方で決められるという事だが、すべてジオアリーナを前提としている。ジオアリーナの駐車場は、防災用としてもあの駐車場がある。大雨が降った場合には、三谷の方にため池が三つあり、それ以上に降った場合にはあの駐車場が車のタイヤまで水が溜まるようになっている。そういうことも踏まえてスクールバスの発着場を考えてもらわないといけない。
委員長	・四つのことを議論してきたが今後も継続して議論していくという形をお願いしたい。

資料 1. 第 2 回施設整備部会議事録要旨

資料 2. 新中学校建設場所 (案)

資料 3. 新中学校の玄関等 (案)

資料 4. 第 2 回学校運営部会議事録要旨

資料 5. 授業コマ数と必要部屋数 (案)

資料 6. 勝高校舎図 (現状)

資料 7. 勝山高校・勝山市内中学校の部活動一覧 (R 9 年度) (例)

資料 8. 令和 9 年度部活動使用施設 (例)

資料 9. 令和 4 年度勝山市体育施設利用希望状況

資料 10. 中高連携の柱 (案)

資料 11. 探究・中高一貫教育に関する新聞記事→著作権の関係上、公開不可

資料 12. 第 1 回 P T A 部会議事録要旨

資料 13. 勝山市地域公共交通計画 (イメージ)

資料 14. 令和 9 年度スクールバス利用推計人数

資料 15. ワーキングチーム委員名簿